淡江大學100學年度進修學士班轉學生招生考試試題

系別：日本語文學系三年級　　科目：日 語 翻 譯　30-1

考試日期：7月20日(星期三) 第4節　　本試題共 6 大題， 2 頁

＊請依題號順序作答。

本試題雙面印刷

一、閱讀下列說明，選出符合該文意的「諺」或「慣用句」。（各2分、共20分）

1、「相手が非常に優れているので、それと比べることができないほど劣っている。」
（①高嶺の花。②手が届かない。③高みの見物。④足元にも及ばない。⑤太鼓判を押す。）
2、「ほしくて堪らない様子のたとえ。」
（①喉から手が出る。②目から火が出る。③鼻から息が出る。④頭から煙が出る。⑤口から舌が出る。）
3、「本当に実力や才能のある人は、普段はそれを隠して、人に見せない、というたとえ。」
（①技ある侍は刀を持たず。②能ある鷹は爪を隠す。③芸は身を助ける。④頭を隠して尻を隠さず。⑤念には念を入れる）
4、「ある人を非常に憎らしいと思うと、その人に関係あるもの全部が憎らしく思えてくる、というたとえ。」
（①内は弁慶、外は地蔵。②知らぬが仏。③仏の顔も三度。④借りる時の仏顔。⑤坊主憎けりゃ、袈裟まで憎い。）
5、「その人よりも優れている。」
（①まれに見る。②例を見ない。③右に出る。④右往左往。⑤左右を弁えない）
6、「自分に都合のいいことばかりを考えて、図々しい様子。）
（①虫が好かない。②虫がいい。③飛んで火に入る夏の虫。④虫の居所が悪い。⑤虫が知らせる。）
7、「昔身に付けた技、また、昔鍛えて、今でも自信のある腕前。」
（①無芸大食。②神技。③昔とった杵柄。④身に余る。⑤身に染みる。）
8、「人は生きているからこそ、どんなことでもできる。死んでしまったら、何もできないから、危ないことは止めなさいということ。」
（①命拾い。②犬も歩けば棒に当たる。③一寸の先は闇。④命あっての物種。⑤人生の至る所に青山あり。）
9、「非常にはっきりしていて、疑う点はどこにもない様子。」
（①火のない所に煙は立たない。②火を見るより明らか。③明日は明日の風が吹く。④百聞は一見に如かず。⑤風前の灯。）
10、「大変苦労して、勉強に励むこと。」
（①けがの功名。②読書百遍意自ずから通ず。③学問に近道なし。④蛍雪の功。⑤習うより慣れよ。）

二、選出下列外来語的中譯。（各2分、共10分）

1、「マルチ・メディア」
（①廣播媒体。②新聞媒体。③多媒体。④平面媒体。⑤媒体生態。）
2、「エコシステム」
（①操作系統。②生態系。③環境荷爾蒙。④塑化劑。⑤聲控系統。）
3、「バイリンガル」
（①外語能力。②母語人士。③外籍人士。④国際化人士。⑤雙語人士。）
4、「グローバリゼーション」
（①未来化。②資訊化。③全球化。④本土化。⑤全面化。）
5、「デリバティブ」
（①金融衍生商品。②次級房貸。③金融恐慌。④泡沫經濟。⑤金融秩序。）

背面尚有試題

淡江大學100學年度進修學士班轉學生招生考試試題

系別：日本語文學系三年級　　科目：日 語 翻 譯　30-2

考試日期：7月20日(星期三) 第4節　　本試題共 6 大題， 2 頁

三、將下列日文漢字劃線部分標音，並將全文譯成中文。（標音各1分、中譯各2分、共20分）

1、「釈迦に説法」：
2、「忠言耳に逆らう」：
3、「怠け者の節句働き」：
4、「苦しい時の神頼み」：
5、「脚光を浴びる」：

四、將下列日文句子譯成中文。（各3分、共15分）

1、ハイキングに行くかどうかは明日の天気次第です。
2、写真を見ると、あの頃のあなたが思い出されてならない。
3、彼女に成功をもたらしたのは、毎日の努力の結果にほかならない。
4、彼は経営者としてのみならず、作家としても知られています。
5、運動や栄養もさることながら、睡眠不足にも気を付けてください。

五、將下列中文句子譯成日文。（各3分、共15分）

1、我考上淡江日文系三年級的轉學考試。
2、不論大人還是小孩，門票都是３００円。
3、日本雖無豊富的天然資源，但經濟非常發達。
4、中文已取代日文、法文等，成為世界上僅次於英文的第二大國際語言。
5、交通事故不但没有減少，反而不斷增加。

六、將下列日文文章譯成中文。（20分）

日本は「衣食足りて礼節を知る」どころではなく、「衣食足りてますます衣食を求める」国となり果ててしまった。教養を一歩一歩積み上げることで、自分が一歩一歩内面的に豊かになって行く充実感と愉悦は何物にも替えがたいものである。経済は豊かな社会を実現するためであり、教養は自らを豊かにするためのものである。それだけではない。経済繁栄とは、これにより、衣食住の向上安定や労働の軽減を達成しようとするものである。そしてこれは、そうすることで得られた自由や余暇を、文化、芸術、読書、学問といった教養の充実に向けるためのものである。経済だけで人生を終えるのは余りにも寂しいと思う。教養主義の復活が切望される。